日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな～れ
175号
2016年5月
部内資料
発行責任者　太田　勍　(62-5727)
議員連絡先　うすい孝彦　(62-5093)
服部　久子　(62-4357)
編集責任者　山本　久子　(61−1066)

新シリーズ 池田町の歴史探訪

第1回　池田八幡神社

2丁目　青木 正行

池田町には素晴らしい景観と共に、歴史や由緒ある建物がたくさんありますので、詳しい方々に原稿をお願いしてシリーズでお伝えしていくことになりました。

第一回は「八幡神社」の歴史に詳しく、ガイドマスター会に所属してガイドをされている2丁目の青木正行さんにお願いしました。

当池田八幡神社は池田町役場、池田小学校、高瀬中学校と境を接し、社に囲まれた境内は約５０００平米あります。

この境内には八幡神社本殿、相殿の十二社社殿（共に町指定文化財）の2棟の本殿が鞘宮に納められ、それと新築になった幣殿、拝殿が池田八幡神社です。

池田発祥の歴史

この池田八幡神社は池田町区の産土神で、池田発祥の一部証が見て取れます。本殿に合祀されている「九頭竜神」は、室町時代文安元年（１４４４年）地頭池田十郎藤重が戸隠社に奉勧請したとの記録が残っています。

このことが池田の地名の最初の記録の一つであり、ご神体と思われる写しは現在社務所で見ることができます。

八幡神社は社伝では「天正年間（１５７３～１５９２）山城国の男山（石清水）八幡宮より分霊を勧請さる」とありますが、上原卓郎家文書、上原茂男家文書、下押野矢花家文書によると寛永６年（１６２９）草創の宮で押野村（旧明科）八幡宮より勧請とあります。

この八幡宮は延喜式年神社に列せられる、古社川合神社を伝説に持つ古い神社です。神紋は左巴紋（全国一万と言われる八幡は巴紋）です。

例大祭は舞台の奉納

祭神は第15代応神天皇「誉田別命（ほんだわけのみこと）」で、戦の神様・産業の神様でもあります。

この社殿の製造年月の記録はっきりしませんが、草創期（江戸初期）の建造と推定されます。建築様式は「一間社流造」と言われます。

例大祭9月24日にはお船二艘が曳航され、相撲、浦安の舞等が奉納されます。

相殿・十二社はかつて1丁目県住地に祭祀されていた無格社十二神社で、社紋は「羽団扇（うちわ）」です。

祭神は土の神・農耕の神「埴安比売之命（はにやすひめのみこと）」で、これらの由緒は現在のところ不明です。明治41年八幡神社の相殿として合祀されました。

社殿は宝暦（１７１５～１７６０）記銘の棟札一葉を有します。「隅木入春日造」と言われる建築様式です。

例大祭は9月23日に各町舞台八台が曳航し奉納されますが、これはこの十二社のお祭りです。

明治41年両社の合併に至るまで、八幡社と十二社は1日違いの各々の祭日を持ちながら、池田町村一体での祭典が斎行されてきました。

新たな九頭龍神

明治41年神社合併により相殿の祭神「九頭龍神（治水の神様）」を合祀しました。

この祭神は嘉永14年（１８６７）に今の東町より遷座しています。

この九頭龍神にはご神紋も無くお船、舞台の曳航奉納と言った祭事もありません。

ところが今般の大改築により、新拝殿の向背正面上部に見事な立派な龍の彫刻がなされました。

これは今回仕方なく切り出されたご神木の、欅の大木から掘り出された記念の彫刻です。松川村在住で当代随一の彫刻家「中牧一典（なかまきいってん）氏」の作品ですが、私には九頭龍様が現れ出たと思えてなりません。

向背左右両方の柱にも登り龍、下り龍が彫られています。末代にお祀りし大いなる神徳を戴こうと思います。子供たちには登竜門とならんことを祈っております。

参議院選挙
野党共闘の勝利・日本共産党の躍進を！

協定調印後、握手を交わす（左から）北沢、杉尾、鮎沢、竹内の各氏

7月に迫った参議院選挙は、戦争法（安保法制）と憲法問題が大争点になっています。どの世論調査でも「戦争法反対」「憲法改悪は許さない」が多数です。この国民の声が、野党5党の政治的合意と選挙協力の流れをつくりだしました。

長野選挙区でも、3月20日に県内の野党3党（共産、民進、社民）と、統一候補となった杉尾ひでや氏（民進党公認、元ニュースキャスター）が選挙勝利に向けた「共闘協定」に調印し、運動が始まりました。

私たちは「戦争法廃止を求める２０００万署名」のお願いに伺っていますが「野党共闘は大賛成」「どうしても参議院選挙で勝って政治を変えてほしい」と激励を受けることが多くなりました。

27選挙区で野党共闘が実現

戦争法廃止、立憲主義回復を求める市民グループも加わった野党統一の動きは、昨年暮れの段階で「オール沖縄」のイハ洋一予定候補と、熊本選挙区のあべ広美予定候補（無所属）のみでしたが、2月19日の野党党首合意を受けて加速しました。

5月14日には、鹿児島選挙区で、続いて16日には奈良県選挙区で統一候補の一本化が決まり、32選挙区にのぼる1人区のうち27まで実現し、残り5選挙区となりました。

日本共産党は、1人区での統一候補の勝利とともに、比例代表での躍進、複数選挙区での必勝をめざしています。

私たちは長野選挙区での「杉尾ひでや」さんの勝利と共に、比例代表での議席獲得のために頑張りますのでご協力をお願いいたします。

27人の統一候補のうち民進党公認は13人、無所属は14人です。現職６人で元職が３人。経歴も国会議員経験者から、学者、弁護士、元首長、マスコミ出身者など多彩な顔ぶれです。

参院選の前哨戦となった衆院北海道5区補選で野党統一が実現し、短期間の選挙戦にもかかわらず池田まき候補が自公候補を僅差まで追い詰め健闘。野党統一が自公と補完勢力を打ち負かせる可能性を示しました。

参議院選挙は、7月10日投票が予想されていますが、ＦＣニュース読者の皆様のお力をお借りして全力で頑張ります。

日本共産党池田支部

コラム 有明

4月に放映された、ＮＨＫスペシャル「団塊世代、しのびよる老後破産」を見て、背筋が寒くなる思いをしました。「団塊世代」は、１９４７～５１年生まれの戦後世代で、およそ1千万人いるそうです。▼終身雇用制で、比較的余裕がある世代と思われてきましたが、バブル崩壊に直面し所得や退職金は減少。親は長寿で介護が必要となり、負担が重くのしかかっています。▼その上、就職氷河期に直面した団塊ジュニアと言われる子供たちは、非正規雇用など不安定就労の割合が高く、自立できずに同居している人や結婚しても援助しないと暮らしていかれない人などで板挟みになっています▼自分の年金だけでは、親の介護や、子の支援がままならず、そうかと言って働くところもなく、貯蓄を切り崩して生活している世帯が多いそうです。▼貯金が底をつけば親子ともども、どう生活したらいいかと悩んでいる方々の実態が放映されていましたが、他人ごとではありません。いつから、この国は長寿を喜べず、明るい未来を望めない国になってしまったのでしょうか。